

第4回 倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会議事録（要旨）

日 時 平成25年10月8日（火）

14:00～16:00

場 所 倉敷市本庁 701会議室

出席委員 河邊委員長、榎本副委員長、井上委員、片岡委員、洲脇委員、八島委員、山口委員、渡邊委員

事務局 環境政策部 中原部長、永瀬次長
環境政策課 小野課長補佐、三宅係長、長谷川主事

オブザーバー 倉敷市立自然史博物館 狩山主幹

1 開会 あいさつ（環境政策部 中原部長）

2 議事

事務局から説明を行った後、委員から質問、意見があった。

委員 3-66ページのコラム18、高梁川流域は水と緑をまもる会が長年活躍されて実績をのこしている。近年始められたものについては、10年くらいやって実績があがってから載せてもいいのではないかと思う。

委員 様々な団体がこれまで市内で活躍してきて、その実績の上に倉敷市の環境行政が成り立っていると思うので、自然史博物館の設立経緯にしろ、倉敷市の環境保護・生物多様性保全に市民レベルでの活動が大きな役割を果たしてきたことを入れてほしい。

委員長 大原さんが高梁川流域連盟を始められ、重井先生が引き継いで広げられ、高梁川流域の水と緑をまもる会へつながって、という流れならいいのでは？それで今日の活動が活発である、というように書けますか。

委員 直していただいた3-59ページのところ(1)が書かれていて非常に適切と思う。難点は4-1、ネイチャープランや環境基本計画の生物多様性との関わりがどうなのかが抜けている。どのように生物多様性を意識しているのかという書き方をして欲しい。

3-63, 64は問題点がしっかりして良くなった。ただ(1)の問題・課題のところ冒頭に、現在の生物多様性を保全・回復・維持するのが課題だということを加えてもらいたい。

3-65の環境影響評価という言葉は適切。

委員 3-46なかほど「～などの潮間帯生物」を「～など潮間帯生物」にすると何かたくさんいる感じがして良い。

委員長 表題について、「倉敷市」や「生物多様性」はいるだろうが、「戦略」でいいのか。もっと柔らかくわかりやすい言葉にするのはどうか。

事務局 よその自治体が柔らかめにするため自治体名をひらがなにしているところも多いが「倉敷」は文字自体にアイデンティティがあると思う。

委員長 「戦略」というのはちょっと固すぎる。市民に示す時に表題としては考えておきたい。

委員 どちらかを副題にするかたちで、市民がずっと入れるような計画の名前にすると良い。

委員 生物多様性という言葉自体が一般市民にイメージされていない。「生物多様性地域戦略」を副題にもってきて主タイトルを柔らかくするパターンも考えるべきかもしれない。

委員 4-1の1で「とくに地域が誇りとする～云々」等が入ったのが明快で良くなった。将来像全体も良い。

4-5, 6の戦略基本目標でこの地域らしい言葉が「高梁川流域」と「倉敷と関わりのある」という2つしかない。これがなければ全国どこをとっても同じ基本目標である。これが踏まえらるべきだということであれば残して差し支えないがせつかく3-63, 64に課題がしっかり書かれているのにその課題に対するどういう目標を持つのかが明快でない。

委員 4-7で目標期間が設定されてあるが、2020年までにどうするか、2050年までにどうするかというのがもうひとつ文章が明確でない。

事務局 生物多様性自体が浸透していないという大きな課題があるので、まず短期期間のあいだにそういうものをすすめるということで目標とさせていただきたい。

委員 4-5, 6について、現状ではどこの地域でも同じである。この地域の生物多様性そのものをどうするのかという目標が必要ではないか。

委員 基本目標のうしろに個別目標みたいに何か付け加えてもいいのではないか。「戦略の基本目標」ということばを「目標」ということばにして、基本目標はこう、地域の具体的な目標はこうと、地域の目標をしっかりとさせることが必要ではないか。

委員 主な事業関係課は記載することになるのか。

事務局 組織改正も関わってくるため、取組みは記載するが、事業課まで記載するかは検討中である。

委員 事業担当課があるのがすばらしいと思っているので、これを抜かれたら意味がないように思う。

委員 異論のある市の関係部署もあるだろうけど出来る限り責任体制があったほうがいい。

委員 5-15の数値目標は、生物多様性を取り囲む目標であって生物多様性そのものの数値目標とはいえない。生物多様性そのものの数値目標をどうするのか、書けないなら言葉の目標でもいいと思うが、そういう考え方で体系的にもう少し見直していけばもっと良い計画になる。

委員 基本目標はほとんど行政側の内容であるが、事業者や市民団体が主体になれる項目がずいぶんある。倉敷の自然保護や生物多様性保全は市民主体でやってきたというのが全国的に見ても誇れる部分だと思う。例えば、環境省がCO2削減で展開している「チャレンジ25キャンペーン」のようなものをつくり、市民団体、家庭、事業所等で、示された項目の中からできることを選択してもらい「この活動をやりますよ」ということを宣言してもらおう。そうすれば、その宣言をしている団体などを数値化できるのではないかな。

委員 倉敷では自然保護団体や市民団体がリードしてきた部分がある。1-2でそれを認めた書き方をして欲しい。

委員 倉敷は主に公害で頑張ってきた方々がつくった団体がたくさんあった。公害が落ち着いて、頑張ってきた方々も団体も少なくなったが、生物多様性の問題が最たるものとして自然環境の課題はじつは山積している。そういう意味では既存の団体も、生物多様性に対応するため、組織的にも変わっていかないといけない。そうした動きを支援するあるいは、新たな生物多様性へ対応した形の設立を支援するのも戦略の役割の一つだと思う。

事務局 新しい課題を抱えている事は間違いない。生物多様性保全のためにはもうひと頑張りしていただかないといけないというように、書き方を工夫していく。

委員 非常に多岐にわたるテーマがあるが、環境政策課としてはどういうふうそれぞれの活動に対して加わっていくのか、決議機関に参加するのか、監査とか、もっと具体的にプロジェクトに入っていくのか、どういう動きをするのか。

事務局 行動計画に書かれた各課への周知徹底、年度毎の計画と実績の進捗管理を行なっている。

委員 理想は市民も含め全員がこの内容について理解して大切さを捉えた上でアクションをとることが必要。例えば倉敷市の中の行政への周知あるいは教育という意味では環境政策課はどのような教育をされているのか。

事務局 庁内の生物多様性保全連絡会議の中で個別担当に周知し、そこから各課に繋いでもらっている。さらに、全庁での環境保全推進本部会議を通して周知していく体制をとっている。

周知のために、広報紙、ホームページやイベント、具体的にはシンポジウムや講演会などを続けていく必要がある。

委員 3-15の、県内で確認された要注意外来生物の中で※印ついたものについては、博物館に標本があるのか。※印は必要ない。

博物館 博物館に問い合わせがあれば、標本について答えられる。

事務局 今後のスケジュール説明

委員長 第5回委員会は開催せず、個別に意見照会するものとする。

3 閉会 あいさつ（環境政策部 永瀬次長）